

第6回伊那市地方創生総合戦略審議会 会議録

開催日	平成27年10月7日(水)			
開催時間	開 会	午後2時	閉 会	午後4時
開催場所	市役所 501・502会議室			
委員出席者	上伊那森林組合	伊藤 清		
	伊那市金融団	矢島 充博		
	伊那商工会議所	唐木 和世		
	伊那市議会	伊藤 泰雄		
	旧伊那市区区長会	赤羽 仁		
	高遠町地区区長会	守屋 和俊		
	長谷地区区長会	池上 敏明		
	長野県経営者協会上伊那支部	高嶋 厚		
	地域交通事業者	板山 準治		
	連合長野上伊那地域協議会	日比野 誠		
	伊那市社会福祉協議会	小嶋 早苗		
	伊那市教育委員会	松田 泰俊		
	中部PTA連合会	下島 英喜		
	伊那市観光協会	向山 知希		
	伊那市女性人材バンク	唐澤 桂子		
	公募	二瓶 裕史		
欠席者	上伊那農業協同組合	矢島 洋子		
	伊那青年会議所	池上 裕平		
	伊那市保育園保護者会連合会	小澤 篤		
	信州大学	林 靖人		
委員以外の出席者	上伊那地方事務所地域政策課長 池田 隆義			
出席した事務局職員	総務部長	原 武志		
	人口増推進室長	飯島 智		
	人口増推進係長	伊藤 透		
	人口増推進係	宮川 可南子		
議 事	(1) 伊那市地方創生人口ビジョン(素案)について (2) 伊那市地方創生総合戦略(素案)について (3) その他			
配布資料	資料1 伊那市地方創生人口ビジョン(素案) 資料2 伊那市地方創生総合戦略(素案)の概要 資料3 伊那市地方創生総合戦略(素案) 資料4 重要業績評価指標(KPI)一覧 資料5 市民から頂いた意見と対応			

資料6 議会から出された意見と対応
資料7 審議会が出された意見と対応
参考資料 付属資料
参考資料2 伊那市男女共同参画についてのアンケート調査 調査結果報告書

1 開会

事務局： こんにちは。本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。それでは、定刻となりましたので、始めます。

副会長： こんにちは。ただいまより、第6回伊那市地方創生総合戦略審議会を始めます。よろしくお願いたします。

2 あいさつ

事務局： 本日の会議ですが、4名欠席の連絡をいただいておりますのでご連絡いたします。それでは、会長より挨拶をお願いします。

会 長： こんにちは。10月に入り秋らしくなりましたが、昼と夜の寒暖の差が激しいので、体調には気を付けていただきたいと思います。さて、本日は第6回伊那市地方創生総合戦略審議会を開催いたしましたところ、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。審議会も、4月30日に第1回を開催して、今まで5回にわたる審議を行ってきました。前回は伊那市地方創生総合戦略素々案の協議を行い、意見をいただいたところです。意見を事務局で整理をしていただき、本日は、伊那市地方創生戦略素案として提案をしていただきます。皆様には、お目通しをしていただいていると思いますが、事務局から説明をいただき、皆さんからの意見をいただきながら、特に問題がなければ、この素案を市長に、伊那市地方創生総合戦略案として答申をしていきたいと考えております。また、人口ビジョンの素案についても、前回から修正をしておりますので、事務局から報告いただき、問題がなければ、案として認めさせていただきたいと考えております。この案が今後の伊那市の指針となる重要なものですので、委員の皆様のご自由な意見をいただき、審議いただければと思います。

事務局： それでは、審議会条例に基づき、会長より進行をお願いします。

3 協議事項

(1) 伊那市地方創生人口ビジョン（素案）について

会 長： 第2回の審議会において、素々案として提出されたものです。その時点で順次手直しをしていくということで、本日は、修正をした部分を中心に説明をお願いします。

事務局： （事務局説明）

会 長： 事務局より説明をいただきました。この人口ビジョンにおける質問、ご意見はありますか。特に、アンケート結果が入ったり、文言が変わったということで、大きな変化がないということですね。ほとんどアンケートや統計などを基に作ったものとのこと。答申の際には、どのようになりますか。

事務局： 国では総合戦略に併せて人口ビジョンもつくることとなっているので、総合戦略と一緒に答申に入れていきます。

会 長： 特にご意見等なければ、人口ビジョンはこれで了承ということで、よろしいでしょうか。

(意見・質問等なし)

(2) 伊那市地方創生総合戦略(素案)について

会 長： 次に、地方創生総合戦略ということで、前回は素々案について、ご意見をいただきました。特に変更点を中心として説明をお願いします。

事務局： (事務局説明)

会 長： ありがとうございます。前回の意見を元に、素々案を修正していただき、説明をしていただきました。時間もありますので、少し前回の意見のおさらいをさせていただきたいと思えます。学校教育の充実について、もう少し厚みを持たせたほうがいいのではということがありました。伊那市らしさを出していくべきという意見もいただいていた。併せて、女性の出生の表現の問題、キャリア教育の問題、「副教材」の文言について意見をいただきました。バス、公共交通、飯田線の関係の意見もいただきました。リニアに対しては、企業が下伊那に出て行ってしまうのではないかと心配の意見も頂いています。小さな拠点の考え方についての意見や、高齢者の福祉に対する記述がないのではという意見もいただきました。健康長寿もセールスポイントとなるのではないかと意見もありました。地域が小中高連携して、地域を学ぶこと、さらにプレミアム商品券等を継続して欲しいという意見をいただきました。信州型コミュニティスクールの意見もありました。子育ての重要性のこと、若者への応援、企業誘致、市町村の連携の意見もありました。自然を活用した施策についての意見をいただきました。素々案の中で、企業本社の誘致の関係、市役所バックアップ体制の問題などの意見を頂いています。議会からもいろいろな意見をいただいて、ありがたいと思えます。それぞれ修正等を行っていただきましたが、何か質問等があればお願いします。

気になるのは、総合戦略の基本的な考え方、趣旨の中で、市の総合計画を踏まえるという考え方と、一方で自然減の抑制、社会増の展開、仕事・収入の確保等、地方創生に特化しての戦略を行っていくとも述べているところです。人口減少対策に特化したものとする、いろいろ落ちてしまうものもあるかと思えます。しかし、網羅すると、総花的なものになってしまいます。そのあたりのジレンマがあると思えますが、総合戦略の基本であるところ、原点に戻って考えていかないといけないと思えますが、事務局いかがでしょうか。

事務局： もともと、課題は指摘されていました。繰り返しになりますが、一つは総合計画には、目標となる指標を示していますので、数値的な整合を図るという点です。総合計画が策定されて時間がたっているので、その後の社会情勢や市の政策の変化を捉えて、主に修正を行い、方針が変わっていればケアしていく事となります。一方で、総合計画の中には、もれなくそれぞれの分野が記載されているので、それを全部抜き出すと、全く違いがわからなくなります。今回は地方創生、特に国が示す大きな4つの項目を市のレベルで具現化していくためには、そのような施策について、最終的に人口ビジョンで推計した数値の達成のためにどのような手法があるのかということに目的を持って、ある程度絞り込みをしていかないといいと思えます。総花的過ぎるだとか、一方ではこのような分野が入っていないなど、相反するもので、難しい作業であったと思えます。示した素案については、バランスを総合的に勘案する中で、今考えられるベストなものはこのようなものであると思っていますし、6回の意見を参考にしてまとめてきたものです。

会 長： 意見をお聞きしたいと思いますが、皆さんいかがでしょうか。

委 員： 今のまでの意見は網羅されていると思います。私が意見を述べた、83%の森林資源をどうするかについても、反映していただいています。それから食育についても、学校教育の中で、扱っていく、総合教育の中で扱っていくということでいいことだと思います。若者が都会に就職して、ふるさと戻ってこないということについて、ふるさとの愛着について前回お話をさせていただきましたが、その具体策が相変わらずないので、寂しい思いをしています。

テレビを見ていたら、青森の TPP の関係で、お米の心配がされている中で、ブランド米を一生懸命行って、この様な中でこそ、お米をブランド化していく取り組みがありました。伊那市においても、「川下り米」という美味しいお米があり、信大の先生は、特 A のランクをうけているということの紹介もされております。このようなものと、食育を組み合わせるなどを考えていくとよいのではないかと思います。「川下り米」を小中学校の食育に絡めて、ブランド化していき、評判にならないかと、テレビを見ていても感じました。総合戦略でどのように取り上げていくべきか考えていきたいと思っています。

会 長： ありがとうございます。その他何かありますか。

委 員： 学校教育の充実について、前回お願いしたことが明確に示してもらっています。18ページで3つの柱が示されており、一つ一つが伊那市らしさ、特色を表していますので、ありがたいです。人口動態で表現が心配であった部分がありましたが、うまく表現をさせていただいたと思います。

会 長： ありがとうございます。板山委員はいかがでしょう。

委 員： 自立圏構想の意見については、うまく入れていただいていると思います。ただ、広域ネットワークの構築の中で、リニア中央新幹線の駅の誘致があります。それと比べて、飯田線の活性化が上がっていますが、現状の3時間11分と指標値の2時間50分というのが、異常な差があるという気がします。

会 長： 日比野委員いかがでしょうか。

委 員： リニア関係は、うまくまとめていただいていると思います。今後の課題として進めて頂き、少しでもよくなることを期待しています。企業誘致の関係も、文面としては十分かと思えます。将来展望が見えればいいと思います。

会 長： 守屋委員いかがでしょうか。

委 員： 特化された総合戦略ということですが、私の考え方は、この戦略で解決できるとは思ってはいません。総合計画との関係について、課題そのものをどうするのかという観点だけはきちんと持っていないと、この戦略だけを行って行けばなんとかなるとは思いません。このあと PDCA、戦略の見直しがありますが、特に伊那市の中の、過疎地の動きは、決して甘いものではないと思っているので、そういったものまで、戦略の中で、少しでも解決できる姿を示せないといけないという考え方をもち進めていただければと思います。

会 長： 十分に意見を踏まえながら、検討して頂ければと思います。

委 員： 前回申し上げた高齢者福祉の記述については、林先生からどこにウエイトを置くかというお話がありましたので、そこは自分の中で解決しました。

小さな拠点づくりについては、26年度に、長谷地域が国交省のモニター事業として小さな拠点づくりを行っていたということがありましたので、それを継承しながら、機能できるようにしていただければと思います。

会 長： 小さな拠点は、当初から話題となっていますので、きちんと整理をして頂ければと思います。

委 員： 業績評価の指標が、他項目にわたって、首をかしげるものも含めて多くありますが、数値を出していくと一人歩きをしていきますので、検証する作業を綿密に行い、その後アクションを起こせば何らかの効果は出てくると思います。この後を大切にしてもらいたいと思います。

委 員： 議会と市民との意見交換会も行いました。市民からは真剣にいろいろな意見をいただきました。その中でも子育て支援と若い子どもが働く職場が大事です。世界的な経済で動いているので、ここだけでは難しい問題もあります。何とか、企業誘致を図って、働く場所を提供していかないと、若者は定住しません。これからも真剣に市でも取り組んでほしいと思います。本に伊那市のことが掲載されて、全国から視察が来ます。移住定住しやすい市として認識されています。実際住んでいると、あまり感じないが、どこの地域も真剣に取り組んでおり、せっかくマスコミでも宣伝しているので、何とか人を呼び込みたいと思っています。住んでみると、当たり前になってしまっている、伊那市の魅力を発信していければよいと思います。よくまとめてくれたと思います。

会 長： 議会でも報告いただくこととなるので、よろしく願いいたします。

委 員： 私の意見に対しては、地域の資源の活用については、その前に継承が大事ということを行いました。それをうまく盛り込んでいただいたと思います。これをどのように具体化していくかだと思います。

若者の U ターン促進が、地域の活性化につながると思いますが、その中で、働く場の確保が大切です。経済界でも雇用の場の創出は重要な役割であると認識しています。そのためには企業が発展していかないと、生み出されないので、重要な役割を担っていかなければいけないと思っています。しかし、外部環境によって左右されるところもあるので、なんとかうまくやっていく必要があると思います。グローバル化といっても、ネットワーク社会ですので、伊那を基盤として、グローバル展開している企業も伊那谷でもかなりあります。環境変化をいかに活用していくかは、ある意味ビジネスチャンスだと思いますし、努力をしていく必要があると思います。地域の発展は経済界だけでできるものではないので、行政や教育会との連携を図りながら、うまく若者に戻ってきてもらうということを進めていく必要があると思っています。一緒に連携を進めている部分もありますが、さらに策定後に、具体的に進めていければと思います。

会 長： よろしく願いいたします。二瓶委員いかがでしょうか。

委 員： 戦略は、伊那市らしさが入っておりよくなったと思います。ただし、作った後の検証が大事だと思います。委員の任期は 2 年で終わるが、計画は 5 年です。メンバーは変わってもいいと思いますので、そのあとの検証を行ってもらいたいと思います。近隣の市町村も総合戦略を出してきて、地域のあり方で、地域の特色を出してきています。それも踏まえつつ、検証して見直すということが出てくると思いますので、近隣市町村と連携をとり、情報共有しながら、年々良いものにしていただければと思います。

委 員： 審議会や各種団体との懇談会を開催していただき、この資料が出てきていると思います。私も個人企業をしていますが、なかなか経済的な成長は難しいものもあります。そういった中で、働く場の確保が、伊那市に住んでいるものでも大変な部分である中で、外部の人たち

に満足できるものが用意するのは大変だと思います。その中で、市民みんなが、人口を増やし発展させていくことが大事で、自分たちも努力して行かなければいけないということを、一人ひとりが認識をもって活動していくことが必要だと思います。行政は行政しかできないことを行っていたら、私たちも参加したからには、意識を高く持って、周りの人にも話をし、一人ひとりが、伊那市が発展できるような意識を持つことが大事だと思います。

委員： 資料は、素晴らしいものができてきていると思います。各種団体との懇談会では、多くの方から、さまざまな新しい意見が出ていましたが、それも組み込まれており、とても驚きました。私が気にしていたのは、子育てをしながらの働く女性の雇用、環境問題です。女性が働いて、子どもの病気などの時に、フォローできる体制づくりは、企業が努力をしていかなければいとなかなか進まないところだと思います。そちらは、これからの課題として行っていくということで、各企業も取り組んでいるのでそちらも期待してもいいのではと思います。また、都会の方がこちらにIターンとして、移住している方が、顔見知りの方や両親がいない中で、子どもを預けられるところがない、という話もありました。すぐに預けたい、というときに、ファミリーサポートセンターを知らなくて、困ったことがあったそうです。ファミリーサポートセンターのような良いものは、広報で広く宣伝してもらい、伊那市に来て、困ることはないという、温かい地域の受け入れ態勢があるということの広報活動を行ってほしいと思います。

会長： 貴重な意見ありがとうございます。

副会長： 戦略の中に、建設関係が抜けていましたが、広域交通ネットワークの構築の部分で記載していただきました。実際リニアが来る前にどこまでできるかが課題だと思っています。一番変わってきているのは、インバウンドで外国人が来ているということです。リニアが来たときに伊那市に来てもらえるかどうかという大きな問題があると考えています。実際伊那市に少しでも来てくれるような体制を整えてもらいたいと思っています。

会長： ありがとうございます。

副会長： 前回、KPIの算出根拠について話しましたが、丁寧にまとめていただきました。わからない事業もありますが、事業の内容とKPIを結ぶパイプが算出根拠だと思っています。施策をどのように検証していくのか。検証過程で、どうしてこのKPIを設定するのかという部分で、このようなものがあれば、数値を状況に応じて直してもいいのではと思っています。根拠を示して頂いたということは、これからはつながっていくのではと思います。

会長： 委員の皆様から意見をいただきました。今のところ特に修正が必要なところはないと思いますが、事務局から何かありますか。

事務局： 6回の審議会の中で、タイトなスケジュールでご審議いただきました。今日はまとめということで、わたくし共としては、大変うれしく思っています。お褒めをいただいた部分もありますし、エールをもらったと思っています。総合戦略における伊那市らしさという面では、「日本を支えるモデル地域構想」として、以前より、市長が今後の地方創生はこうあるべきだということを議会でも示して、特に伊那市として力を入れていきたい部分で、ここに示したものがリーディングプロジェクトとなっています。リーディングプロジェクトの中でも、まだ具体策が見えないものもありますが、委員の皆様からの意見を具体的な事業の展開の中で生かしていきたいと思っています。今後審議会の中でも、検証の作業を皆様をお願いをしていくわけですが、その時に情報提供も行っていただき、皆様からも具体的な事業のプラン

ニングについても意見を頂ければと思います。

交通の関係で、12年後にリニアが開通されます。それを活かしての伊那谷づくりの検討がされています。飯田線というローカル線の活性化に向けて、同盟会を立ち上げていますが、なかなか飯田線というローカル線をリニアの2次交通として捉えるのは非現実的だと思っています。むしろ観光利用という形で、ローカル線ならではの秘境などの資源を活かして観光誘客というテーマで活性化をしていき、そちらへシフトをしていく考えもあります。

「小さな拠点」は、アベノミクスの1つの地方版として、ローカルアベノミクスということで始まったものです。首相もテレビで、第1ステージは終わり、いよいよこれから第2ステージに入っていくと言っています。

28年度からの新たな交付金ということで、国からの財政支援をいただく中で、交付対象の事業として8つの柱が打ち出されました。ローカルイノベーション、ローカルブランディング、観光振興、サービス生産性の向上ということで、金融機関も含めた他分野との連携を進めていくということ、地方創生を推進していくための人材の育成、日本版CCRCということで、伊那市版にアレンジして戦略にも入れています。それから地域ぐるみでの働き方改革で、20から30代の子育て世帯をターゲットとした労働のあり方の見直しをしていくこと。

「小さな拠点」は引き続き行っていくこととなっていますが、生活基盤の確保に加えて、具体的なコミュニティ資源の活性化を図っていく、それについては、具体的にコンパクト化と公共交通ネットワークの形成をして、これを進めていくこととなっています。以上の8つが示されました。

議会からも意見もいただき、その前段として市民からの意見もいただき、個別的な要望も多く、具体的に書き込みきれないものもございますが、市民ニーズは大事ですので、思いをくみ取りながら、事業化のプロセスの中で、反映をしていくことが必要だと考えています。

高遠、長谷地区が過疎地区に指定されていますが、今過疎計画の見直しを行っており、法の適応が32年度までに変わったことがありまして、パブリックコメントを実施しているところです。市民からの意見を反映して、この戦略の見直しに活用していきたいと考えています。

女性の雇用の環境整備については、一般的に女性の社会進出が進むほど、子どもを産み育てる機会が少なくなるのではないかという意見もありますが、実際には欧米の先進諸国をみると逆であり、女性が働くことで、世帯の収入が増えて、子どもを産み育てるというモチベーションが上がるということで、この考え方も大事だと思っています。

「まち・ひと・しごと」の中でも「しごと」の部分については、移住相談の中でも、特に住まいと仕事が大半を占めていますが、住まいは来ればなんとかなるということで、来てみて仕事がなく困った、ということで悩んでいる人もいます。仕事の創出の面では、今後具体的な施策、戦略を考えていかなければいけない課題であると思っています。

役割分担も、戦略は作ったが、事業をどのように展開をしていくのかという中で、官民連携の中で、役割分担をして、自分の得意とする分野でやるべきことをやっていけば、それが後につながっていくのはと思っていますので、役割分担を重視して、事業実施をしていきたいと思っています。

会 長： ありがとうございます。他に意見等ありますか。

委 員： 議会の代表できているので一つ報告します。いい戦略ができましたが、案を作っただけで

はいけません。実行しないと始まらないと思っています。飯田線の話もあります。16日に伊那谷の近隣市町の首長と規制同盟会でJR東海と諸問題について、話し合いに行ってきます。子育て問題も県、国も支援をしていただきたいということで、意見書を出しています。道路整備も重要ですので、13日から国交省にいった要望して来ることとなっています。今日決まったことを、行政と一緒に、ひとつずつ実現に向かって行っていきたいと思っています。ご報告して、約束したいと思います。

会 長： 実際に行うのは、行政であり議会です。是非進めてもらうよう、お力添えをしていただければと思います。特に意見がなければ、これを伊那市の総合戦略として、市長に答申をさせていただくということによろしいでしょうか。

(異議なし)

(3) その他

事務局： ご審議いただきありがとうございます。いただきました意見を基に今後進めていきますが、案につきましては、正副会長に一任いただき、正副会長から市長に答申をしていただくようになりますがよろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、そのような形で進めていきます。よろしくお願いいたします。

会 長： 4月30日に第1回を開催し、今日まで6回の審議をいただき、ありがとうございます。皆様の審議によりまして、無事に答申することとなりましたので、御礼申し上げます。審議会のベースにあるのは地域の良さを発見し、発信し、人を呼び込み、地方創生につなげていくという強い考えであります。大人が、もう一度地域を見直して、その良さを子供たちに伝え、一旦地域を離れても、再びここに帰ってきたい子どもたちを増やすという思いです。これは単なる精神論だけではなく、今回の総合戦略に示されていますが、施策をより具体化していただき、実践していくことによって、十分心も体も、経済的にもこの地域で充足できる伊那市を目指していただきたいという想いです。そうした中で、無事答申できたことを皆様のご協力に、重ねて御礼を申し上げますとともに、この地方創生総合戦略が今後の市政に十分に活かされることを期待しながら、会長としてのお礼とさせていただきます。ありがとうございました。

4 その他

事務局： 6回にわたり、足早に資料の提供をさせていただく中で、審議していただき、ここまでまとめ上げることができました。今後この案は、市で実施をしていく中で、KPIの検証は随時行います。具体的な事業については、皆様から意見をいただきながら、PDCAサイクルの中で、新たな政策を盛り込んだり、見直しをしたり、作業を行ってまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

5 閉会

副会長： 以上をもって、本日の会議を終了します。ありがとうございました。